

第37回オートサービスショー 2023開催

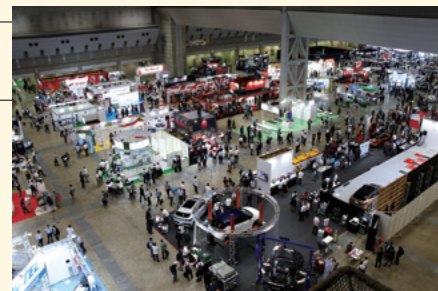
自動車技術の変化に対応する 整備機器・サービスが一堂に

第37回オートサービスショー 2023(主催: 日本自動車機械工具協会)が6月15～17日の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されました。

これまで隔年で開催されてきた本イベン

トですが、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点などから実施が見送られたため、実に4年ぶりとなります。

「ヒトとクルマの未来を守る整備機器」をテーマに掲げた今回、94社・7団体が



出展し、自動車技術の変化や各種法令改正に対応する設備機器及びサービスを紹介しました。来場者数は3日間合計で35,770人に上りました。

アルティア



型式認定申請中ながらもOBD検査に特化した検査用スキャンツールが注目を集めた。リーズナブルな価格帯での提供を目指しており、追加購入でも初めてスキャンツールを導入する場合でも敷居が低い

安全自動車



参考出品ながら、車体の周りを自走することでエイミングを自動で完了するエイミングロボットが来場者の注目の的。未来の自動車整備を想起させずにはられない展示となった

イヤサカ



EVのバッテリー交換のみならず整備への対応も視野に入れて、使い勝手の良い多関節アームを組み合わせた低床アームの門型リフト。バッテリーを仮置きする台と組み合わせることで、EV整備に対応

関西ペイント



“Change!”のコンセプトのもと、自動車や社会、業界の変化に対応するボデーショップに向けて、水性塗料システム「レタンWBエコEVシステム3.0」などの活用による課題解決を提案した

スリーエムジャパン



ネット研磨材とダストエクストラクターによる「クリーンサンディングシステム」や「PPSシリーズ2.0」のほか、ソフトパッドを貼り付けて面追従性、研削性を高めた足付けディスクも参考出品した

デンソーソリューション



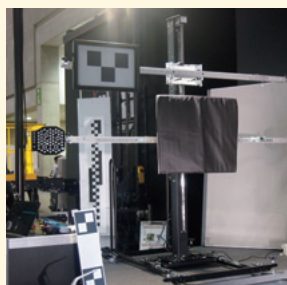
来年一般販売を目指すOBD検査用スキャンツール「DN-DST-010」。従来品と比べて小型・軽量化を図った。純正ソフト(トヨタ・ダイハツ・SUBARU)のVCIとしても使用可能

日本ペイント



新型測色機を採用した「nax-E-CUBEカラボ2」、耐スリ傷性クリアーの追加でラインアップを強化した「nax-E-CUBE WB水性システム3.0」のほか、車内向け抗菌・抗ウイルスコーティング剤も紹介

バンザイ



カメラエイミング、レーダーエイミングの双方に対応し、位置補正などが付属のタブレットで操作できるエイミングサポートツール「Q-DAS」。ターゲットの位置情報をリアルタイムに確認可能

ボッシュ



EDRデータを活用して車両骨格のダメージなどを数値化・見える化する新技術「Bosch Car History Report (BCHR)」を公開。中古車流通業界、特にオートオークション会場などでの活用を想定する

コロナの影響により支払い保険金はほぼ横ばい 先進安全装置の普及などによる 部品価格の上昇傾向は継続

損害保険料率算出機構（損保料率機構）はこのほど、「自動車保険の概況」2022年度版(2021年度データ)を発行しました。同書は統計数値などを用いて、自賠責保険及び自動車保険の仕組みや一般的な補償内容、収支動向、自賠責保険の損害調査などを保険契約者や交通事故被害者などに知らせることを目的に毎年作成されているものです。同書の中から、自動車保険の収支などについて、過去のデータとの比較と併せて紹介します。

同書によると、2021年度の任意自動車保険の収入保険料（グラフ1）は3兆9,364億円で、前年度に比べ336億円(0.8%)減少、支払い保険金（グラフ2）は1兆7,293億円で同比68億円(0.4%)増加していました。保険金支払いを補償種目別に見ると、対人賠償、搭乗者傷害、人身傷害は前年度より減少しましたが、対物賠償及び車両は増加しています。車両保険の事故形態別統計（表1）を見ると、「他車・物・人との衝突、接触、転覆、墜落」による支払い件数・保険金が前年度から増加していました。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けた外出自粛要請などの影響により、交通事故発生件数が大きく減少しました。2021年度も新型コロナウイルスは社会生活に大きな影響をもたらしましたが、経済活動においては徐々に再開の動きが見られたことから交通量が回復し、それに伴い物損・自損事故が増加したため、車両及び対物賠償の支払い件数・金額が増加したと推察されます。

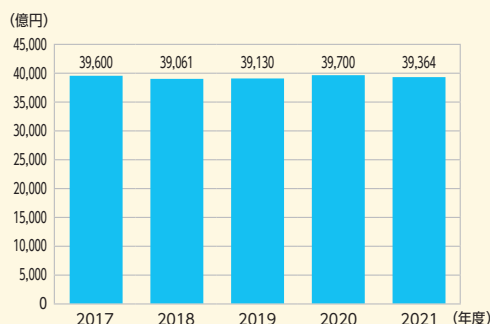
修理費の費目別統計（グラフ3、4）を見ると、車両保険では部品費が前年度比3,515円増の169,683円（構成比52.8%）、工賃が同比1,035円増の67,801円（同21.1%）、塗装費が同比220円減の54,428円（同16.9%）、その他が同比512円増の29,735円（同9.2%）でした。一方、対物賠償では部品費が同比3,779円増の148,893円（構成比43.0%）、工賃が同比572円増の62,255円（同18.0%）、

塗装費が同比108円増の52,400円（同15.1%）、間接損害が同比4,348円増の56,245円（同16.2%）、その他が同比674円増の26,477円（同7.6%）でした。

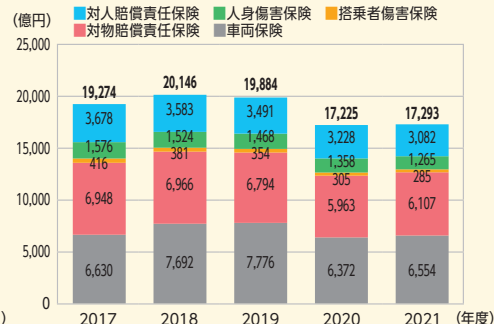
対物賠償及び車両保険の支払い金額は若干増加したものの、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は依然として大きく、

支払い保険金全体としてはほぼ横ばいで推移していました。一方で、先進安全装置の普及などによる部品価格の上昇傾向及びそれによる修理費の増加傾向は継続しています。昨今の物価高騰などによる影響もあり、部品費、工賃、塗装費は今後も上昇傾向を示すと考えられます。

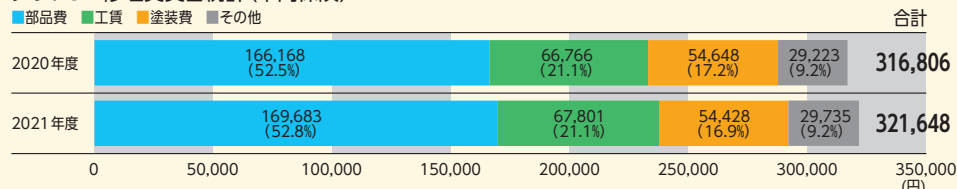
グラフ1 任意自動車保険・収入保険料の推移



グラフ2 任意自動車保険・支払い保険金の推移



グラフ3 修理費費目別統計(車両保険) ※()内は構成比 ※端数処理のため項目上の数値と合計が一致しない場合あり



グラフ4 修理費費目別統計(対物賠償責任保険) ※()内は構成比 ※端数処理のため項目上の数値と合計が一致しない場合あり

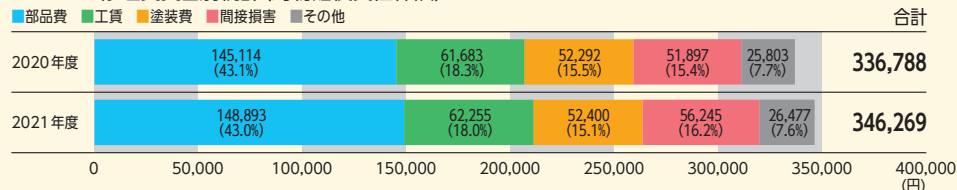


表1 任意自動車保険 車両保険 事故形態別統計

事故形態		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
他車・物・人との衝突、接触、転覆、墜落	支払い件数(件)	1,725,152	1,726,414	1,700,561	1,470,931	1,511,886
	(対前年度比)	389	1,262	-25,853	-229,630	40,955
	支払い保険金(千円)	553,117,991	567,881,390	581,905,539	524,464,135	551,940,908
	(対前年度比)	15,700,216	14,763,399	14,024,149	-57,441,404	27,476,773
台風・竜巻・洪水・高潮	支払い件数(件)	13,769	100,760	69,415	14,506	4,188
	(対前年度比)	3,366	86,991	-31,345	-54,909	-10,318
	支払い保険金(千円)	8,884,173	69,128,842	67,145,732	9,912,030	3,141,168
	(対前年度比)	1,222,681	60,244,649	-1,983,110	-57,233,702	-6,770,862
盗難	支払い件数(件)	10,047	7,490	5,921	3,982	3,757
	(対前年度比)	130	-2,557	-1,569	-1,939	-225
	支払い保険金(千円)	11,188,405	10,510,434	11,511,349	8,628,487	9,332,083
	(対前年度比)	200,008	-677,971	1,000,915	-2,882,862	703,596
その他	支払い件数(件)	407,398	437,153	418,286	378,790	386,532
	(対前年度比)	25,804	29,755	-18,867	-39,496	7,742
	支払い保険金(千円)	80,950,432	108,860,995	105,174,408	84,809,748	82,575,146
	(対前年度比)	11,778,116	27,910,563	-3,686,587	-20,364,660	-2,234,602

※販売用・修理工場等受託車、特殊な用途・使用方法の保険契約及び特殊な契約条件による保険契約を除く
※「その他」には、火災・爆発、飛来物・落下物との衝突等が含まれる

NGP 協同組合、6月の大雨被害発生を受けて水害対策本部を設置

一日も早い被災地復興に向けてNGP 組合員が一致団結

本州付近に停滞した梅雨前線と台風2号の影響により、6月2～3日に西日本から東日本にかけて広い範囲で大雨となりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた方のご冥福をお祈り申し上げます。

この大規模災害の発生を受けて、NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合（小林信夫理事長）は、6月12日に藤原庸正副理事長を本部長とした水害対策本部を設置し、愛知県豊川市の拠点（ヤード）で、被災車両の引き取りを開始しています。

組合員各社がレッカー車や積載車を持ち込んだヤード内では、東海支部のNGP組合員と組合本部職員が一致団結して作業に当たっており、提携保険会社などからの依頼を受けてディーラーや修理・整備工場、個人宅へ迅速にお伺いし、被災車両の引き取りを進めています。

復興支援活動では、NGPが開発した水害システムが活用されています。水害システムは、Web上で被災車両の情報を共有する仕組みで、依頼主がWeb上で入力した情報をNGP本部及び現場で確認することもできます。さらに、現場の作業者がタブレットで撮影した車両写真を直接システムに登録することができるため、本部職員及び現場の作業効率化、さらには被災車両引き取り作業の迅速化につながっています。

東海支部長の藤村博志理事は「今回のヤードは住宅地の中心にあり、高校なども近くにあるため、特に引き取りに向かう際の安全運転を徹底しました。被災地の一日も早い復興に協力できるよう、支援活動に取り組んでいます」と話すとともに、NGPがSDGsの取り組みの一つとして掲げている被災地支援活動に今後も積極的に取り組む姿勢を示しました。



豊川ヤード



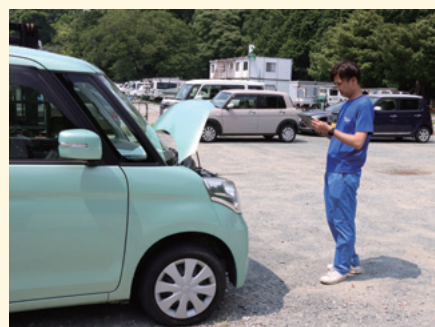
組合員各社が持ち込んだ積載車及びレッカー車



提携保険会社などからの依頼を受けて、ディーラーなどから被災車両を運搬



朝礼の様子。豊川ヤードは住宅街内に設置したため、特に安全運転を徹底した



NGPが開発した水害システムの活用で、現場作業を効率化



大雨により、多くの車が被害を受けた

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和5年5月：

1,937t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和5年5月：

0.5t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

第13回自動車技術基礎研修会開催

自動車の構造と整備・修理技術を学習

第13回自動車技術基礎研修会が5月29～31日の3日間、(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センター(静岡県裾野市)で開催されました。

同研修は、自動車の構造やパネル钣金及び補修塗装などの修理技法を学ぶためのものです。実習ではエンジンなどの部品を分解しながら、故障時の不具合現象についても理解を深めました。

3日間の研修を終えて、(株)仕商会の高橋梨花さんは「今回の研修で、普段取り扱っている部品が実際に動いていると

ころを確認したことで、理解を深めることができました。研修で100%の知識がついたわけではなく、業務をしていく中でまた疑問に感じる部分がたくさん出てくると思いますが、自分自身でも学びを深めていこうという気持ちを作ることができました」と、積極的に学ぶ姿勢が身についたことを実感しています。

(有)青木興業の岡田浩平さんは「3日間の研修を通して、自動車の構造について理解を深めることができました。研修で学んだ知識を活かして、もっと提案の

幅を広げられると感じました」と、研修で学んだことを業務に活かしていく姿勢を見せています。

ウェイクパーツ(有)和氣商店の麻田成昭さんは「確認作業では見ることでできない内部の構造及び動きまで見ることができて、勉強になりました。また、各県で同じ仕事をしている方々と情報交換ができたことも良かったです」と、NGPの仲間達と直接情報の交換ができることを、研修会の魅力の一つとして実感していました。



令和5年度NGP提携リビルトメーカー合同会議を開催

リビルト部品のさらなる有効活用を目指して議論を展開

NGP協同組合は6月22日、TKP品川カンファレンスセンター(東京都港区)でNGP提携リビルトメーカー合同会議を開催しました。

リビルトメーカーとの合同会議は、従来定期的に実施してきましたが、2020年以降は新型コロナウイルス感染防止の観点から延期しており、実に4年ぶりの開催となりました。冒頭の挨拶で小林信夫理事長は、日ごろのNGPの活動への支援に感謝の意を表した上で、「我々を

取り巻く市場環境は、使用済み自動車の減少、事故の減少、運賃高騰などを受けて、非常に厳しい状況となっています。この先、さらなる変化が予想される中で、皆さんと様々な意見を交換することが大事だと考えています」と、難局を乗り越えるための積極的な意見交換を呼びかけました。

会議では、各種販売実績データ、フロントマン・アンケート結果、物流の現状、オートリサイクルパーツネットワーク、

SDGsの取り組みなどについて議論が交わされ、今後のリビルト部品拡販につながる、有意義な会議となりました。

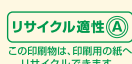


NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



ZERO®
CO₂
PRINT



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ(石油系溶剤 0%) など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット(相殺)した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。